



副市長就任

4月3日から新たに江連隆信が副市長に就任しました。

江連副市長は、栃木県職員として38年間、県の外郭団体に4年間、主に県土整備分野の行政に携わってきました。

就任のあいさつでは「長く行政に携わってきた経験と知識と、何より一市民としての感覚を大切に、坂村市長を支えて、下野市の未来のために尽力させていただく所存です」と決意を示しました。



自衛隊入隊者激励会を開催

3月4日、本市出身で新たに自衛隊に入隊する若者を励ます激励会を開催し、市長や自衛隊栃木地方協力本部長、自衛隊栃木地方協力本部小山地域事務所長、下野市自衛隊家族会長、自衛隊募集相談員の方々から激励の言葉をいただきました。

国防・災害派遣・国際貢献など、国の重要な任務を担う9名の皆さまの、今後のご活躍とご健康をお祈りします。



「細谷小学校における小規模特認校の取組に対する検証結果」が提言されました

下野市学校適正配置推進協議会は、細谷小学校の小規模特認校制度の取組状況の検証と、今後のあり方について検討を行っています。

令和4年度の会議においては、同校の現状と前回の検証から3年間の取組、成果と課題、保護者や地域に対する説明会での意見などを踏まえ、今後の方向性について慎重に審議を重ねてきました。

その検証結果が次のとおり提言されましたので、お知らせします。



細谷小学校の特色ある取組(体験活動)

検証結果の概要

本協議会では、細谷小学校の特色ある取組や義務教育機会の確保における意義をさらに市民に広く周知及び広報をしながら、小規模特認校制度を継続させ、併せて「下野市学校適正配置基本計画」に明記されている複式学級の解消を目指すことが重要であると現時点では考えます。また、小規模特認校制度を学校だけの課題として考えるのではなく、「地域と共に」ある学校のモデルとして位置付けて、その可能性を探っていくという考え方も大切であると思われれます。

以上のことを踏まえ、細谷小学校における小規模特認校制度の取組について、更なる検証を継続して行うことを提言します。

これらの取組の成果の検証は、令和10年度に行うこととし、その間、地域の大学と連携・協力のもと、従来までの児童数などの推移といった量的な側面のみならず、小規模特認校の効果を保護者や児童がどのように実感しているか、教職員はどのような手応えや課題を感じているかなど質的な側面からも検証を行うこととします。

例えば、「学校評価」を基に、学校関係者以外の第三者が行う評価などを加え、それらの検証状況を、中間の時期となる令和7年度に、市の広報紙やホームページなどで広く市民の皆さまに情報提供することを提言します。

※詳しくは、市ホームページをご覧ください。

<https://www.city.shimotsuke.lg.jp/0123/info-0000008029-3.html>

